

## 第5回（平成20年度）

### 日本原子力学会北関東支部 技術功労賞

「第5回（平成20年度）日本原子力学会北関東支部技術功労賞」は、選考委員会の審議を経て、以下の3件の受賞が決定しました。

本賞は、北関東支部管内において原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保など技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

#### 受賞者・受賞団体及び受賞概要

- ・ 日本原子力発電株式会社 総合研修センター

件名：日本原子力発電株式会社 総合研修センターにおける長年にわたる国内外の原子力関連人材の育成

（概要）受賞団体は、本年設立20年を迎え、その前身から通算で40年の研修実績を有している。その間、電力会社、原子力関連メーカー、原子力関連団体から受講生を受け入れ、幅広い研修を行ってきており、受講生の数は通算すると約33,000人に上る。また、国際協力の一環としてアジア各国をはじめ、南米やアフリカなどからも研修生を毎年受け入れている。さらに、地域社会における原子力の理解促進のために、夏休み等の機会を利用して茨城県の小中高等学校の教職員の方々に対する研修を開催している。こうした地道な取り組みを通じ、原子力黎明期から現在に至る国内外の原子力の安全な発展に寄与してきた。

- ・ 日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所  
ホット試験施設管理部 実用燃料試験課 燃料試験施設照射後試験グループ

件名：永年にわたる実用燃料の高度化及び安全研究に対する照射後試験データ等の提供

（概要）燃料試験施設は、原子力発電所で使用された実用燃料の照射後試験を主に行う大型のホット試験施設である。受賞団体は、昭和54年12月の試験開始以来、平成20年度までに国内のPWR、BWRの $UO_2$ 燃料集合体13体及びATR「ふげん」で照射されたMOX燃料集合体7体等の照射後試験（受託試験件数：約130件）を継続して実施してきた。この間、Gd入り燃料やインナーライナー付被覆管を利用することで負荷追従運転及び高燃焼度化が達成できること等を裏付けるためのデータを提供、PCMIやSCC等の新しい知見の取得、新型転換炉（ATR）のためのMOX燃料集合体についての照射後試験の実施、国の安全規制に資するための安全研究、原子力発電所における事故・故障の原因調査・究明など、永年にわたり実用燃料の高度化及び安全研究に対して照射後試験データを提供すること等による多大な技術的貢献を果たしてきた。

・ 下山一仁氏，磯崎，三喜男氏，川田 耕嗣氏，今堀 真司氏

(日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター)

件名：高速炉安全性研究試験技術の確立と長年における安全な施設保守管理の遂行

(概要) 受賞者らは、25年以上の長年にわたり、高速炉安全性研究分野の試験に関して、原子力安全委員会が定める国の安全研究年次計画に沿った、蒸気発生器伝熱管破損に伴うナトリウム(Na)－水反応現象や大規模 Na 漏えい燃焼現象、および炉心損傷事故(CDA)時の再臨界回避技術に関する熔融炉心物質流出挙動、熔融燃料と冷却材熱的相互作用(FCI)、熔融炉心物質の構造材損傷挙動などの工学的な炉外試験の対応で、国内に先行例の無い難易度の高い試験技術の開発・確立を図って安全性研究のニーズに的確に応えるとともに、これら試験の効率的かつ安全な実験装置の運転および付帯する多種多用の施設設備の保守管理について中心的立場として従事してきた。候補者らのこれまでの地道な積み重ねによって成し得た成果は、国の高速炉安全評価手法の整備等に反映され、安全性向上に資されている。

